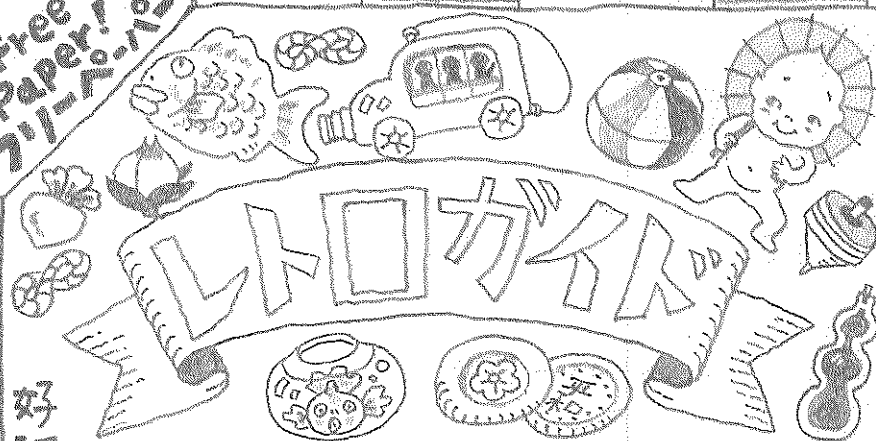
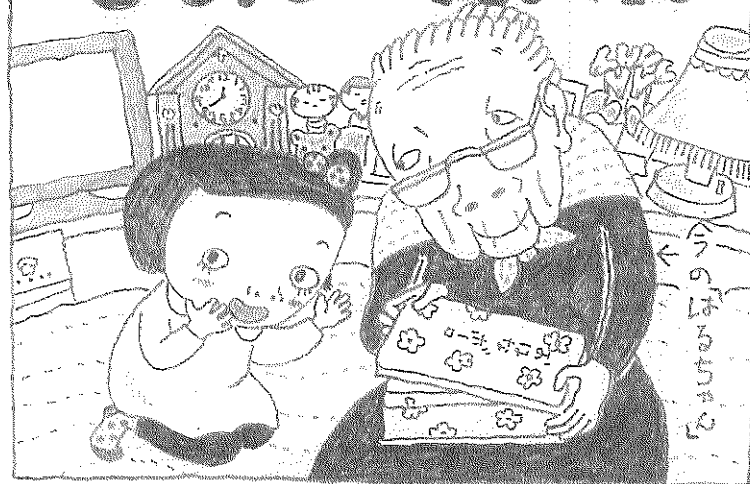


Free Paper! 7/17-18



好評発売中!!

レトロガム



さく 花山かずみ 借成社刊

ひみつのかんかん

「さあ、いくつ見つけられるかな？」 1920~30年
 糸巻本『ひみつのかんかん』には大正生れのはるちゃんが子どものころの風景が描かれています。今ではめずらしくなったり、もう見られなくなったものもたくさんあります。ちとタイムスリップしてみましょう!

- ・映画館入場料...40銭 ・コーヒー...10銭
- ・週刊誌(週刊朝日)...13銭 ・食パン...16銭
- ・公務員初任給...75円 ・入浴料...7銭 (昭和5年当時)

アドバレーン 1913年に東京日本橋で化粧品品名入りの気球を上げたのが始まり。高層の建物が多くなるにつれて見られなくなりました。

ハロワリ(日傘)はカールとともに年齢関係なく大切なオシャレアイテムでした

モカ(モダンガール) 関東大震災後~昭和初期の若者のスタイル。西洋風のコート、洋装、濃いメイクが特徴。年配の人は「不良スタイル」と言われたらしい... (いつの時代も...) ちなみにモダンボーイは「モボ」

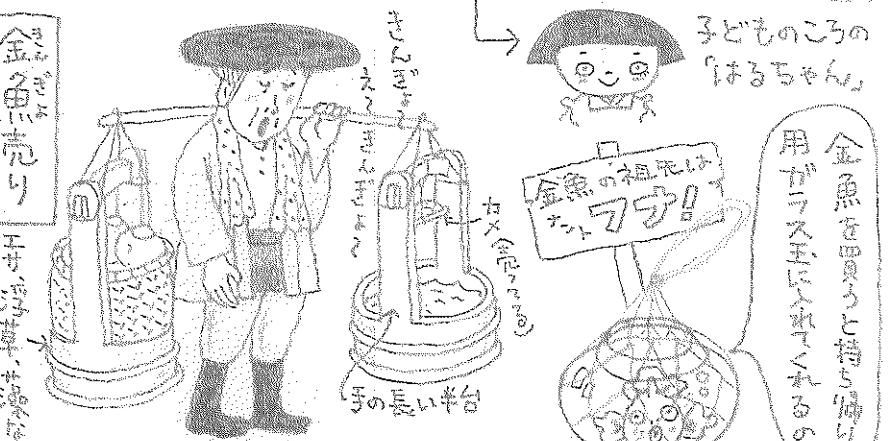
大正~昭和初期にやたら登場する「レトロクリーム」の看板。化粧品メーカー「宝尾賢平商会」(今はない)のヒット商品で月肌荒れ防止の化粧クリームです。

金色のフタにエンボスのある乳白色のビン



昭和8年のポスター

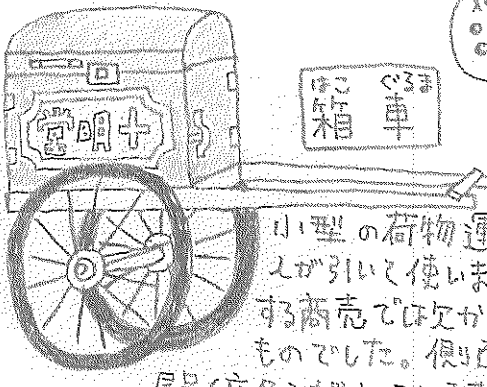
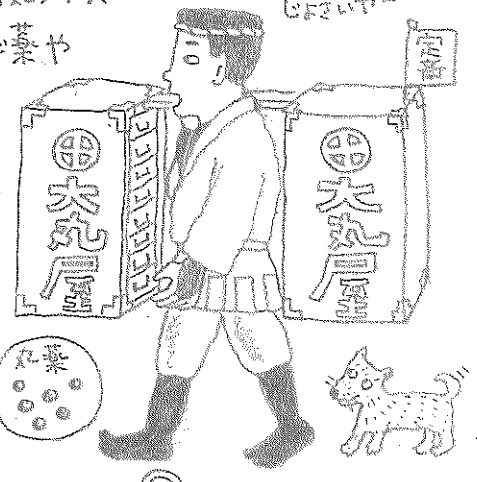
はるちゃんがお父さんと歩いた にぎやかな通りのパノラマ (本文P16-17)



1920年以前の名古屋の太須がモリ
 五月ごろから「きんぎょ〜え〜きんぎょ」のゆくりとした売り声で手の長い羊台で売ります。この羊台の水が大きくゆれないように歩けるようになるには長年の修業が必要でした。金魚の種類は和魚、上手に飼うと30年位生きること...

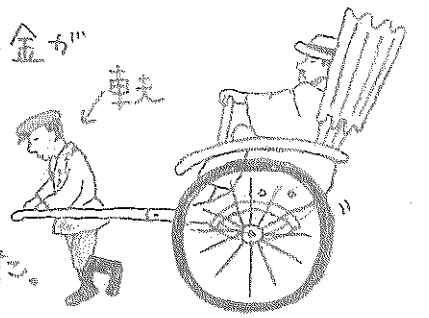
定斎屋 夏限定の薬の行商人。暑気アリ、夏バテ、食アリに効く煎じ薬や丸薬を売っていました。

たくさんの引き出しのある薬箱の耳が「カチカチ」と鳴る音が特徴です。昭和30年(1955年)ごろまで見かけることができました。



人力車 小型の荷物運搬車。人が引いて使います。配達する商売では欠かせないものでした。側面には屋号(店名)が入っています。

明治のはじめ日本で発明され昭和はじめまで利用されました。距離にあわせてだいたいの料金が決められていました。裕福な家庭には「おかかえ車夫」がいて「自家用人力車」がありました。



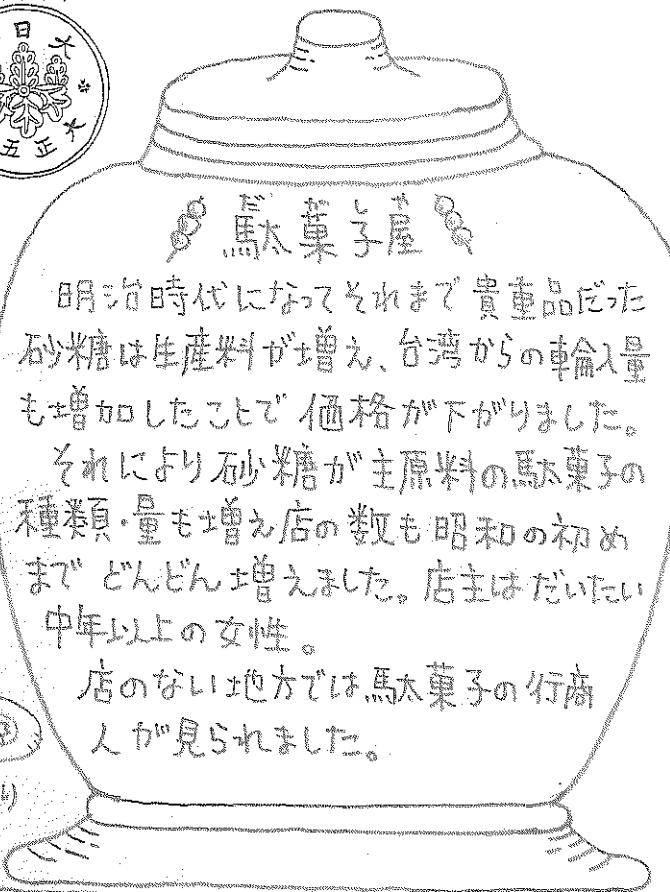
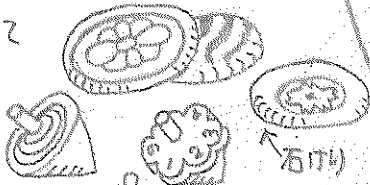
はるちゃんがよく通っていた馬太菓子屋のページ
だかしや (本文P22-23)



一銭石貨

100金銭=1円
 ・キャラメル(10粒) ... 5金銭
 ・たいやき(3コ) ... 5金銭
 ・大福 ... 2金銭
 (昭和5年当時)

ガラスの石けりコマ



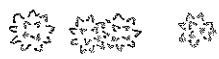
馬太菓子屋

明治時代になってこれまで貴重品だった
 砂糖は生産料が増え、台湾からの輸入量
 も増加したことで価格が下がりました。
 それにより砂糖が主原料の馬太菓子の
 種類・量も増え店の数も昭和の初め
 まで「どんどん」増えました。店主はだいたい
 中年以上の女性。
 店のない地方では馬太菓子の行商
 人が見られました。

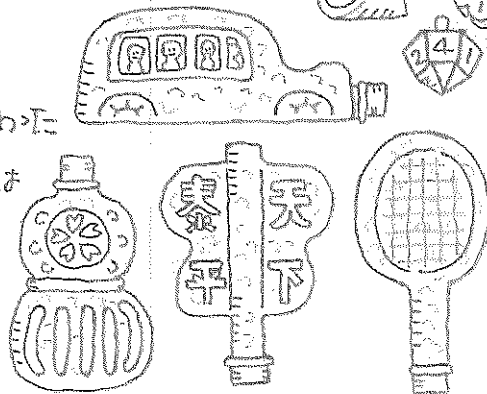


店の前では男の子たちはメンコ・ペーゴマ、女の子たちは縁台で
 オハシキ・お手玉、等で遊んでいました。妹や弟を背負って
 子守りをしながら遊ぶ女の子も多かったそうです。
 (絵本には登場しない馬太菓子も紹介します)

金平糖



ポルトガルから470年前に伝わった
 南蛮菓子。馬太菓子として広まったのは
 明治時代。金平糖は出来る
 まで2週間かかります。
 当時は色々なデザインのガラスびん
 に入れて売られていました。



花串カステラ

卵・小麦粉・砂糖・
 水あめの生地を焼き上げ
 仕上げに砂糖をまぶす。

豆板

白砂糖・黒砂糖で
 大豆・インゲン豆・小豆を
 板状にたたいたもの

ガラ王

1コ1金銭の大きな
 アマ玉。買うと新聞
 紙で作ったふくりに
 入れてくれる。

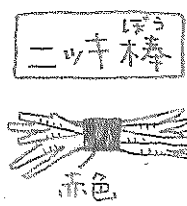
あんこ玉

あんこを丸めて寒天
 ゼリーで包んだもの。
 ひらひらしたゼリー部分
 から食べるのがオススメ

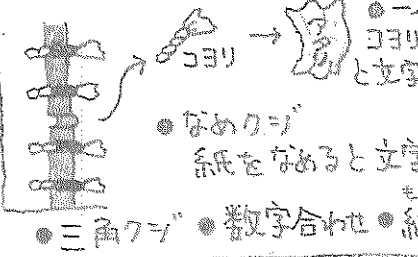


あんこを丸めてきな粉
 をまぶした「あんこ玉」
 もある。中に目玉玉
 が入っているとアツリ。

肉桂(ニッキ)の根。
 ワイルドにかじると
 風味豊かな甘みか
 口に広がる。
 味がなくなったらペロっと
 する。



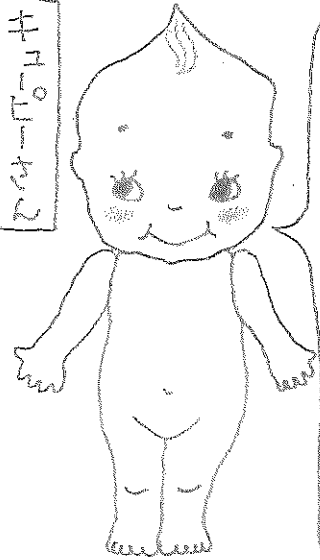
当てもの(クワ)の種類



大正時代の終わりに
 は当てものが大流行
 してお土産品になりました。
 ついには警察が取り締まりを
 行っていました。

金花糖の鯛

煮溶かした砂糖を糸練で木型で
 抜いて色をつけた
 もの。当てもので1等が
 できるともらえる子ども達の
 憧れ。お店の不明の上の方に
 飾ってありました。
 中身はからっぽ
 1等を当てた子
 を誰も見たことは
 ナイとか...



大正15年の「こども博」では
 京都駅前
 に5mの塔の上に2m70cmの
 キューピーが出現

アメリカ生乳のキューピーが大ブームに！
 変身キューピーも当時がありました。
 サムライキューピー・木太太郎キューピー
 歌舞伎キューピー etc...

ラムネ

ビンを作るとき口の部分を
 大きめに作ります。
 ビー玉を入れてから口を
 熱し糸細くすぼめます。
 次に炭酸+シロップを
 入れ急激に逆さまに！
 すると炭酸の圧力で
 ビー玉がゴムのパッキン
 に押しつけられ栓に
 なり完成！

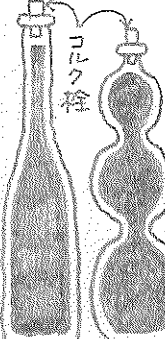


ラムネ

今から150年前にイギリスで生まれ
 中身のレモネードが「ラムネ」に。
 日本では明治に入ってスプレー7。
 昭和6年に1本5〜8金銭。ビンが
 返却することになっていました。
 (ビー玉を取り出す子の数有)
 味は製造元によって違い、今も
 炭酸は弱く、必ずしも冷たいは
 いませんでしたら (B玉)
 ラムネの栓にあるビー玉は、完全
 球体でなくてはならず、実は
 E玉(A玉)が使われている
 等級をあらわす



みかん水



←共に子ども達に大人気！！
 ・さわやかな甘みでオレンジ色の
 飲み物。果汁0%の「みかん水」
 ・ニッキの強烈な刺痒感と香りと
 甘味かがくせになる(らしい...)
 「ニッキ水」
 飲み終わると舌の色が青や赤に
 なり友達と見せあって喜びました。
 はるちゃんみたいに飲むのを
 禁止されてる子ども達もいましたよ。